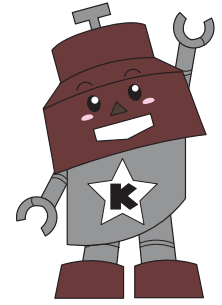




イチリンソウ(一輪草)

安行原の「ふるさとの森」で、市指定天然記念物のイチリンソウが
かれんな花を咲かせ、訪れた人た
ちの心を和ませました。



第77回 春の安行花植木まつり

4月12・13日、川口緑化センターほか4会
場で開催。花や植木、約770種35,000点
の展示販売のほか、園芸相談や生け花デ
モンストレーションなどが行なわれ、春の
植物を楽しむ多くの来場者でにぎわいま
した。



KAWAGUCHI

PUBLICITY

川口の桜



川口桜まつり(4月4~6日、文化放送送信所(赤井3))



芝川公園(川口元郷駅近く)



芝川の川口五色桜(元郷3付近)



見沼代用水東縁(グリーンセンター付近)



永堀川公園(辻)



元郷学校給食センターが開所

老朽化した前川学校給食センターと神根学校給食センターに替わり、約1万2千食分の給食調理を担う市内最大の給食センターが完成。4月2日に開所式が行われました。



水墨画にチャレンジ!

3月29日アートギャラリー・アトリアで開催。水墨画独特の筆の運びや墨の使い方を学んだ後、真剣なまなざしで作品づくりに取り組んでいました。



COMMUNITY

マイシティ
かわぐち

MYCITY

ひと・歴史・かわぐち Vol. 16

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます。

気丈に気高く穏やかに

大奥御年寄 瀧山

今回は、二代の将軍と生母そして御台所^{みだいどころ}に仕え、気丈に大奥を取り仕切った、御年寄瀧山をご紹介します。

江戸城本丸御殿。幕府政庁の「表」、将軍が政務を執る「中奥」、そして御台所の住まう「大奥」がありました。瀧山の正確な誕生日は不明ですが、文政5年(1822)、16歳の頃に大奥に上がり、その忠実な勤めぶりと才幹を認められ、ついに御年寄に昇進します。御年寄とは大奥の総取締役。「表」の老中に匹敵する大奥第一の重役でした。

13代将軍家定^{いえただ}が世子(世嗣)の頃から西の丸で仕え、将軍就任とともに将軍付き御年寄となった瀧山は、14代家茂にも仕えることとなります。家定生母の本寿院、家定御台所の篤姫(天璋院)、家茂生母の実成院、公武合体のため家茂に降嫁した孝明天皇の妹和宮(静寛院宮)が暮らす大奥にあって、14代将軍の座をめぐる激しい対立と抗争に巻き込まれても、気丈に大奥を守り抜いた瀧山でしたが、やがて慶応3年(1867)、大政奉還の年に大奥を去ります。その後、侍女仲野の生家を頼り、叔母の染島とともに二軒在家村(現川口市朝日)に落ち着いた瀧山。この地を終の棲家と定め、夫婦養子を迎えます。大奥で才能を開花させ、幕末の動乱期を気高く生き抜いた才媛は、大奥では決して得られなかった家族の温もりに包まれ、明治9年(1876)、71歳の波乱に満ちた生涯を穏やかに閉じました。法名「瀧音院殿響蒼松月祐山法尼」。日光杜参の将軍御休憩処だった錫杖寺で、今も静かに眠っています。

参考文献「川口大百科事典」(川口大百科事典刊行会、1999、(株)きょうせい「川口史林第77号」、川口市郷土史会、2012)



瀧山の墓の左に侍女仲野、右に叔母染島の墓が寄り添う。瀧山の墓石背面には「東京府士族 東京南伊賀町 七代自主 大岡権左衛門長女 徳川家大奥老女俗稱 瀧山 行年七十一歳」との銘が刻まれている。

宝珠山地藏院錫杖寺：本町2-4-37